

第 130 回 東海地区三県下(愛知・岐阜・静岡)の企業経営動向調査

1. 概況

全産業の業況総合判断「D.I.」は 4 期連続で「好転」超が続く

1. 業況総合判断「D.I.」は 3.7 となり 4 期連続で「好転」超を示したが、「好転」超幅が前回比▲8.8 ポイントと前回の見通しを下回った。
見通しは今回実績比+8.5 ポイントの 12.2 となり、好転割合が増加する見通し。
2. 売上高「D.I.」は 10.0 となったが、前回比▲15.8 ポイントとなり全業種で前回より「好転」超幅が減少。特に卸売業が前回比▲23.1 ポイントと大きく悪化。
3. 収益「D.I.」は前回比▲9.3 ポイントの 1.2 と「好転」超幅が減少し、特に小売業が前回比▲19.2 ポイントの▲8.5 と大きく悪化。
4. 経営上の問題は前回調査時同様「人材の育成」や「求人難」の「人」に関する問題が 4 割超となっており、増加傾向にある。為替の円安進行の不服感や原油価格の下落もあったが、輸入原材料や燃料などの「原材料高」は依然として高位にある他、「売上・受注不振」も高位となっている。

今期は昨年 4 月に実施された消費税率引き上げの影響により、傾向判断基準の前回比において売上高「D.I.」及び業況総合判断「D.I.」が全業種で悪化、仕入価格「D.I.」は前回比で改善したものの「上昇」超を示した。販売価格「D.I.」、収益「D.I.」については運輸・倉庫業のみ改善した。傾向判断基準は前年同月と比較するが、前年は消費増率引き上げ前の「かけこみ需要」により景気が牽引され、今期においてはその反動により悪化した。一方、先行きについては設備投資意欲が減退しているものの全体的に明るい見通しを持った経営者が多い結果となった。

